日本学校教育学会
第 36 回研究大会　プログラム

日本学校教育学会第 36 回大会準備委員会
（日本大学・オンライン開催）

教育裁判事例集
―裁判が投げかける
学校経営・教育行政へのメッセージ

●佐々木幸寿 著　　定価2,750円

学校経営が直面してきたさまざまな問題はどのように司法に判断されてきたのか、学校運営・教育行政にまつわる裁判事例を読み解く。

スクールティーチャー
―教職の社会学的考察　　定価4,420円

●ダン・ローティ 著／佐藤 学 監訳
織田泰幸・黒田友紀・佐藤仁・榎景子・西野倫世 訳

1975年発行の教師教育改革の起爆剤となった名著をついに翻訳。現在にも通じる教師の直面する複雑な現実を明快に解明。

画一化する授業からの自律
―スタンダード化・ICT化を超えて

●子安 潤 著　　定価2,420円

教育の画一化が、スタンダート化、そしてコロナ禍による急速な学校のICT化の下で拡大する事態に警鐘を鳴らす。

公民科授業実践の記録

●西尾 理 著　　定価3,850円

公民科教育で実践した授業（環境、経済、政治、心理、倫理等）を収録。授業方法、教材づくりや、授業実践の記録を紹介。

発達障害における教師の専門性

●角南なおみ 著　　定価4,290円

発達障害傾向のある子どもに対する教師の関わりの特徴を明らかにする。

日本と韓国における多文化教育の比較研究
―学校教育,社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して

●呉 世蓮 著　　定価3,850円

日本・韓国の政策,学校教育等を比較し、多文化教育の取り組みを分析。

早稲田教育叢書 39
地理教育フィールドワーク 実践論

●池 俊介 編著　　定価2,310円

学校教育におけるフィールドワークの現状・課題を明らかにする。

国際バカロレア教育と教員養成
―未来をつくる教師教育

●東京学芸大学国際バカロレア教育研究会 編　　定価2,530円

実践事例や教育を担う人材養成のあり方等、IB教育を多角的に紹介。

早稲田教育ブックレット　「大学のオンライン教育」をテーマにして開催された講演会報告を掲載。早稲田大学の事例などを収録。

26 大学におけるオンライン教育の現状と展望
定価1,320円

27 オンライン授業の評価と方法
●早稲田大学教育総合研究所 監修　　定価1,210円

カラフルな学校づくり
―ESD実践と校長マインド

●住田昌治 著　　定価1,980円

元気な学校は元気な教職員から!!じわじわと染みわたる等身大の学校変容。

〒153-0064　東京都目黒区下目黒３－６－１
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代)　Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

コロナ禍の学校で「何が起こり、どう変わったのか」

細田眞由美編　佐藤博志編著　朝倉雅史著

A5・上製・312頁・税込3520円　ISBN978-4-7989-1782-2　C3037

学校現場で生徒、保護者、教育関係者は何を見たか。

さいたま市教育長の協力によりコロナ禍の学校現場の変容を調査。休校に伴いオンライン授業やICTを導入したが、従来の学校教育の問題がより一層生徒の学習・成長の妨げとなり、教師もより多忙化を極めていた―。問題が山積みの中、教育関係者と生徒と保護者の現状と展望についてまとめた教育現場のリアリティ。

【目次】

緒　言―本書を読む人々へ―　（細田眞由美）
はじめに　（佐藤博志）
序章　本書の目的と方法　（佐藤博志）
1章　転換期の日本の学校　（佐藤博志）
2章　自治体の実態　（佐藤博志）
3章　学校の事例研究　（佐藤博志）
4章　数字でわかる現場のマインド　（朝倉雅史）
終章　現場のリアリティから未来の教育を描く　（佐藤博志）
あとがき　（佐藤博志）
執筆者紹介

主体的・対話的で深い学びの環境とICT［新装版］

久保田賢一・今野貴之編著

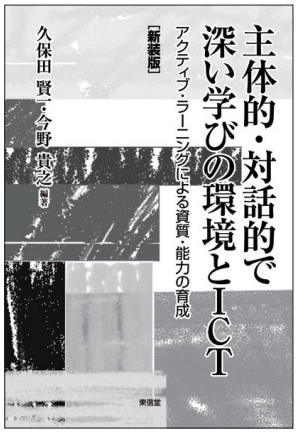
A5・並製・248頁・税込2530円　ISBN978-4-7989-1780-1　C3037

ICT時代の学校教育について実践から考える。

学校で自己を鍛える実力を養うため、取り組む実践力を培うためにICTをどう使うのかを実践する指南書。ICT教育を網羅する分かりやすい用語集と文献紹介がさらに学ぶ意欲を促進する。新装再版。

【目次】

まえがき／用語集
第一部　初等中等教育における ICT を活用した教育
1章　21世紀に求められる能力とICTを活用した学習環境
2章　主体的・対話的で深い学びの環境とICT
3章　思考力の育成とICT
4章　日常的にICTを活用した授業
5章　学び続ける専門職としての教師
6章　教育評価とICT
第二部　資質・能力を育成する教育方法
7章　ICTで越境する学び
8章　情報活用能力を育てる
9章　1人1台タブレットPCを活用する学習環境
10章　ゲームを利用した教育とその課題
11章　ものづくりワークショップとICT
12章　図書館における学習環境デザイン
13章　ロボットを活用した教育実践
第三部　高等教育における ICT 活用
14章　自律的な学びを支える学習支援とICT
15章　大学生の正課外活動とICT
あとがき／索引



東信堂直接注文お問い合わせ　アマゾン　楽天ブックス　honto

東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
HP http://www.toshindo-pub.com
☎ 03-3818-5521　FAX 03-3818-5514
✉ toshindo.onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp（代表）

＊博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

目次

１．研究大会のご案内 ・・・・・・・・・ 2

２．研究大会参加申し込みのご案内 ・・・・・・・・・ 2

３．自由研究発表要領 ・・・・・・・・・ 3

４．お問い合わせ ・・・・・・・・・ 3

自由研究発表１ ・・・・・・・・・ 4

自由研究発表２ ・・・・・・・・・ 5

自由研究発表３ ・・・・・・・・・ 6

自由研究発表４ ・・・・・・・・・ 7

自由研究発表５ ・・・・・・・・・ 8

自由研究発表６ ・・・・・・・・・ 9

自由研究発表７ ・・・・・・・・・10

自由研究発表８ ・・・・・・・・・11

定期総会 ・・・・・・・・・12

シンポジウム ・・・・・・・・・13

課題研究 ・・・・・・・・・14

ラウンドテーブル１実践研究委員会 ・・・・・・・・・15

ラウンドテーブル２国際交流委員会 ・・・・・・・・・16

ラウンドテーブル３機関誌編集委員会 ・・・・・・・・・17

日本学校教育学会第 36 回研究大会の開催にあたって

この度、日本学校教育学会第 36 回研究大会を、日本大学でホストとしてみなさまをお迎えできますことを大変光栄に存じます。

本来ならば、日本大学のキャンパスでみなさまを直接お迎えしたいところですが、現在も新型コロナウイルス感染症の終息には至っていないことから、今大会も、前年度と同様に、オンラインによる開催といたしました。

本学会は、大学・研究機関の研究者と現職教員等の方々から構成された学会であり、理論と実践の往還・融合を目指す研究を特色として参りました。今大会は、自由研究発表 32 件、シンポジウム、課題研究、3 つのラウンドテーブルを予定しております。一日に凝縮した研究大会ではございますが、さまざまな課題について議論が交わされ、より一層研究を深められる機会となりますことを願っております。

自由研究発表につきましては、分科会は 8 会場を設定しております。Zoom による実施ではありますが、熱い議論と活発な研究の交流が行われることを期待しております。

シンポジウムでは、「教師の自律的な研修の継続にむけて －教員免許更新制度廃止後の研修制度－」と題し、今年度廃止された教員免許更新制以後の研修について、さまざまな立場からの提案をしていただき、参加のみなさまとともに今後の研修の在り方を模索します。

課題研究では、テーマを「教職実践知の継承に教職大学院はどのように貢献できるの －教師教育の高度化とミドルリーダーの役割－」とし、これまでの 3 年間の集大成として、研究成果の発表及び研究協議を行います。

また 3 つのラウンドテーブルでは、各委員会より課題解決のための提言や研究成果の発表が予定されています。ラウンドテーブル 1 では、実践研究推進委員会から、「学校に対する外部からの支援のあり方」と題して､学校に対する外部支援の際に留意すべき視点や課題について、事例等を素材として議論を行います。ラウンドテーブル 2 では、国際交流委員会より、「国際交流委員会ミニ研究会（オンライン研究会）を問う」と題して、これまでの研究会の成果と課題について検討が行われます。ラウンドテーブル 3 では、機関誌編集委員会から、「論文審査における実践的研究論文の課題」と題して、実践的研究論文の書き方や留意点などを中心にした提案を行い、参加者とともに議論を行います。

オンラインによる開催となりますため、会員のみなさまに予期せぬ形でご不便をおかけすることもあるかもしれません。大会準備委員会一同、できるだけの準備を心がけますので、みなさまのご理解とご協力を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

実り多い大会となるよう、しっかりと準備を進めてまいります。多くの会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日本学校教育学会 第 36 回研究大会
準備委員会委員長　黒田 友紀

1. 研究大会のご案内

（1）大会日時と会場

日時：2022 年 8 月 6 日（土）9：00　～　18：30
会場：担当校　日本大学、Zoom によるオンライン開催
（※　8 月 5 日（金）に 理事会を開催　15：00～18：00 ）
Zoom による大会への参加方法については、後日お知らせいたします。

（2）大会日程

時間	8:30～ 9:00	9:00～ 11:30	11:30～ 12:15	12:15～ 13:00	13:10～ 15:00	15:10～ 17:00	17:10～ 18:30
内容	Zoom 入室	自由研究発表 （150 分）	昼食 （45 分）	定期総会 （45 分）	シンポジウム （110 分）	課題研究 （110 分）	ラウンド テーブル （80 分）

2. 研究大会参加申し込みのご案内

（1）大会参加申し込み

大会への参加を希望される会員は、以下の、チケット販売サイト Peatix より事前にお申し込みください。お申し込みは、7 月 31 日（日）締切といたします
※お申込みと大会参加費のお支払いが同時に行われます。なお、Peatix の利用にはアカウント登録［無料］が必要です）。
※コンビニ／ATM 支払いの方は申し込み・支払い期日が 7 月 30 日となりますのでご注意ください。
※大会参加申し込みをされた方に、発表要旨収録集等をメールにて送付いたします。

【大会参加申し込み用フォームの URL】　　【QR コード】

https://jase2022tokyo.peatix.com

（2）大会参加費について

今年度の大会参加費は、会員区分に応じて、下記の金額といたします。

○ 正会員・臨時会員　　2,000 円
○ 院生・学部生会員　　無料

3. 自由研究発表要領

（1）発表時間

自由研究の発表及び質疑応答の時間は、下記の通りとします。その際、発表はオンラインにより Zoom を用いて、各会員のパソコン等により実施いただきます。

個人研究発表（登壇者が 1 名）・・・・・・発表 20 分、質疑応答 10 分
共同研究発表（登壇者が 1 名～複数）・・・発表 20 分、質疑応答 10 分
※共同研究の場合にはプログラムのお名前に〇を付した方が口頭発表者になります。
※Zoom による画面共有は一人が担当するものとします。

（2）発表資料

当日の発表資料は、Zoom のチャット機能を利用して配布します。資料は８月５日、２０：００までに本研究大会準備委員会（jase2022tokyo@gmail.com）までお届けください。その際、件名を「自由研究発表資料」としていただいた上、ファイル名を次のようにしてください。

自由研究発表３、４番目の発表の場合・・・ ファイル名：「3-4　（発表タイトル名）」

（3）発表の取りやめについて

万一、お申し込みいただいた発表を取りやめる場合は、必ず事前に本研究大会準備委員会（jase2022tokyo@gmail.com）までご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。

4. お問い合わせ

大会参加に関することは大会準備委員会事務局に、その他のことについては学会事務局にお問い合わせください。

【大会準備委員会事務局】
〒156-8550　東京都世田谷区桜上水 3 丁目 25-40　日本大学文理学部教育学科
日本学校教育学会第 36 回研究大会　大会準備委員会事務局 宛
E-mail：jase2022tokyo@gmail.com（担当：田中・佐久間）

【学会事務局】
〒943-8521　新潟県上越市山屋敷 1 番地　上越教育大学内　蜂須賀研究室
E-mail：jase@juen.ac.jp

8月6日（土）　9：00〜11：30

自由研究発表１

司会　松井 千鶴子（上越教育大学）
飯窪 真也（教育環境デザイン研究所）

１）９：００〜９：３０
OECD ラーニング・コンパス 2030 を生かした小学校理科教育のあり方
○ 石田 好広（目白大学）

２）９：３０〜１０：００
資質・能力を育成するために授業研究のあり方についての研究
○ 小林 広昭（静岡福祉大学）

３）１０：００〜１０：３０
国語の個別最適な学びと・協働的な学びを生かす課題追求型授業
○ 隅内 利之（隅内教育研究所）

４）１０：３０〜１１：００
対話型授業の学びを深めるファシリテーションに関する一考察
○ 山中 信幸（川崎医療福祉大学）

５）１１：００〜１１：３０
主体的学習はいかにして実現可能になるのか
―エドビジョン型プロジェクト・ベース学習から学ぶ―
○ 鳥越 ゆい子（四天王寺大学）

８月６日（土）　９：00～11：30

自由研究発表２

司会　釜田 聡（上越教育大学）
牛 玄（東京学芸大学）

１）９：００～９：３０
地域密着型小規模校の特性を生かすキャリア教育実践の可能性
―高校教師の語りの分析―
○ 島 由佳（鹿児島高校）

２）９：３０～１０：００
島嶼地域における「郷土」学習の実践的課題と展望：喜界島の事例から
○ 内田 富男

３）１０：００～１０：３０
ニュージーランドにおける「総合的な探究」に関する研究
○ 牛 玄（東京学芸大学）

４）１０：３０～１１：００
グローバルマインド形成への１つのアプローチとしての RFCDC：
SGH と WWL における Attitudes と Values の育成
○ 服部 孝彦（大妻女子大学）

５）１１：００～１１：３０
SDGs に対応した学習スキル開発に関する研究（経過報告）
○ 中山 博夫（目白大学）
多田 孝志（金沢学院大学）
和井田 清司（武蔵大学）
石田 好広（目白大学）
峯村 恒平（目白大学）

8月6日（土）　9：00〜11：30

自由研究発表３

司会　藤田武志（日本女子大学）
和井田 節子（共栄大学）

１）９：００〜９：３０
「ベテラン教員」のマイスターモデルに関する Un-Learn 研修の検討
○ 青木 一（信州大学）

２）９：３０〜１０：００
教員の OJT や Off-JT、SD に対する認識の実態
―教員への認識調査の結果を踏まえて―
○ 鈴木 久米男（岩手大学）

３）１０：００〜１０：３０
若年教員の自律的成長を支える学校 OJTⅡ
〜経験知・実践知・創造知〜
○ 柳瀬 啓史（高知市立介良小学校）

４）１０：３０〜１１：００
非正規教員の力量育成の現状と課題
○ 和井田 節子（共栄大学）

５）１１：００〜１１：３０
指導が不適切な教員に対する処遇の考察
○ 飯田 陽香（上越教育大学大学院）

8月6日（土）　9：00〜11：30

自由研究発表４

司会　馬場 訓子（岡山大学）
奥泉 敦司（金沢学院大学）

1）９：００〜９：３０
保育者志望学生の地震防災に対する意識の傾向
○ 佐藤 大介（くらしき作陽大学）
馬場 訓子（岡山大学）

2）９：３０〜１０：００
保育者養成校における地震防災教育の課題と今後の方向性
○ 馬場 訓子（岡山大学）
佐藤 大介（くらしき作陽大学）

3）１０：００〜１０：３０
教員・保育者養成課程における ICT 活用指導力向上に向けたカリキュラムの検討
―教職課程コアカリキュラムに示された ICT 活用関連項目の整理―
○ 村山 大樹（帝京平成大学）
○ 今田 晃一（大阪樟蔭女子大学）

4）１０：３０〜１１：００
大学生の世界認識の変化の背後には何があるのか
―表現者を育てる教育現場における事例をもとに―
○ 守内 映子（日本映画大学）

5）１１：００〜１１：３０
協働的な演劇活動を通して創造性の育成を目指す
ワークショップ型表現授業の可能性
―学生の振り返り記述の計量テキスト分析による検討―
○ 山本 直樹（長野県立大学）

8月6日（土）　9：00〜11：00

自由研究発表５

司会　和井田 清司（武蔵大学）
土屋 弥生（日本大学）

１）９：００〜９：３０
高等学校公民科における対話活動の実践研究
―深い学びの実現を目指した対話の在り方についての一考察―
○ 本山 修（長野県松本県ヶ丘高等学校／信州大学大学院教育学研究科）

２）９：３０〜１０：００
新科目『ビジネス・マネジメント』の指導法研究
―ケース教材の開発と活用による探究型学習―
○ 我妻 芳徳（山形県立霞城学園高等学校）

３）１０：００〜１０：３０
高校生の社会参画意識に関する研究
―部活動における小学生との交流に着目して―
○ 林 幸克（明治大学）

４）１０：３０〜１１：００
高校総合学習（探究）の可能性と課題
○ 和井田 清司（武蔵大学）

8月6日（土）　9：00〜11：00

自由研究発表6

司会　矢嶋 昭雄（東京学芸大学）
鈴木 瞬（金沢大学）

1）９：００〜９：３０
教職課程における ICT 活用指導力に関するカリキュラムマップの作成
―「情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法」を中心として―
○ 今田 晃一（大阪樟蔭女子大学）
○ 村山 大樹（帝京平成大学）

2）９：３０〜１０：００
地方の小規模校における若手教員育成の実践と課題
―珠洲市における令和 3 年度「若手教員早期育成プログラム」の共同実施の分析を手がかりに―
○ 小町 成美（金沢大学大学院教職実践研究科）
○ 鈴木 瞬（金沢大学大学院教職実践研究科）
○ 新村 裕二（金沢大学大学院教職実践研究科）

3）１０：００〜１０：３０
教員養成課程から教員への就職というトランジションとその課題①
―若手教員が感じる「困難」に着目して―
○ 渡邉 はるか（目白大学）
藤谷 哲（目白大学）
峯村 恒平（目白大学）
枝元 香菜子（金沢学院大学）

4）１０：３０〜１１：００
教員養成課程から教員への就職というトランジションとその課題②
―トランジション課題としての「適応」の過程に着目して―
○ 藤谷 哲（目白大学）
峯村 恒平（目白大学）
渡邉 はるか（目白大学）
枝元 香菜子（金沢学院大学）

8月6日（土）　9：00〜11：00

自由研究発表 7

司会　菅原 至（上越教育大学）
望月 耕太（神奈川大学）

1）９：００〜９：３０
コロナ禍における学校の働き方改革
―初任者教員へのインタビューを通して―
○ 元木 廉（名古屋大学大学院・院生）

2）９：３０〜１０：００
学校教育活動における新型コロナウイルス感染症対策に及ぼす
校長リーダーシップの影響
○ 吉澤 寛之（岐阜大学大学院教育学研究科）
○ 棚野 勝文（岐阜大学大学院教育学研究科）
○ 長倉 守（岐阜大学大学院教育学研究科）
○ 芥川 祐征（岐阜大学大学院教育学研究科）

3）１０：００〜１０：３０
教職大学院におけるミドルリーダーの専門的力量の育成に向けた実践研究
―学修者の視点に立ったカリキュラム・授業設計に関する一考察―
○ 浅野 あい子（東京学芸大学）

4）１０：３０〜１１：００
「教育困難高校」における教育課程の特色と課題に関する考察
○ 山田 朋子（女子美術大学短期大学部）

8月6日（土）　9：00〜11：00

自由研究発表８

司会　荒井 英治郎（信州大学）
鈴木 翔（秋田大学）

1）９：００〜９：３０
包摂性のある多文化共生の学級経営方略
―大阪市Ａ区の日本語指導が必要な子どもの「学びの保障」の観点から―
○ 山田 文乃（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程））

2）９：３０〜１０：００
帰国後の外国にルーツのある子どもの保護者からみる日本の特別支援教育
○ 山元 薫（静岡大学）
○ 大塚 玲（静岡大学）
○ ヤマモト・ルシア・エミコ（静岡大学）

3）１０：００〜１０：３０
養護教諭におけるジェンダーとセクシュアリティ
―マンガ作品の社会学的分析―
○ 篠原 清夫（三育学院大学）

4）１０：３０〜１１：００
不登校児童生徒の教育機会の保障問題
ー「出席扱い」と「学習評価」のマネジメントに着目して
○ 荒井 英治郎（信州大学）

8月6日（土）　12：15～13：00

定期総会

8月6日（土）　13：10～15：00

シンポジウム

教師の自律的な研修の継続にむけて
－教員免許更新制度廃止後の研修制度－

教員免許更新制の廃止が決定し、今後の教師の研修（制度・実施）については、都道府県／市区町村の教育委員会、および学校、そして教員が、自律的かつ計画的に研修に取り組むことがますます重要になる。教員の研修は教育基本法第 9 条および教育公務員特例法第 21 条において規定されているが、経済協力開発機構（OECD）の国際教員指導環境調査（Teaching and Learning International Survey：TALIS）の結果などからは、多忙等により教員が望む研修を実施できていない現状が浮かび上がっている。そして、2019 年に発生したコロナウイルス感染症によって、学校現場ではさらに多忙が加速し、十分に研修を実施できなかった状況もある。また、自治体等が実施している教員研修の内容が、現場のニーズと乖離しているという課題も見られる。このような状況のなかで、どのような研修システムを構築すれば、教師が自律的に研修を行い、学びに生かすことができるのか、また、研修において、教師はどのような示唆を得られれば、児童生徒に還元ができるのだろうか。

本シンポジウムでは、今後の研修の在り方に関して、研究者の立場からの提案、教職員に対する総合的支援を行っている教職員支援機構からの提案、そして、研修の実施主体でもある教育委員会から提案をしていただく。

本シンポジウムをとおして、フロアのみなさまと今後の教師の自律的な研修の在り方を模索する機会としたい。

【シンポジスト】
白水　始氏　（国立教育政策研究所）
荒瀬 克己氏　（独立行政法人教職員支援機構理事長）
澤野 幸司氏　（宮崎県延岡市教育長）

【コメンテーター】
牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

【司会・進行】
藤平 敦（日本大学）・渡邉 真魚（日本大学）

８月６日（土）　15：10～17：00

課題研究

教職実践知の継承に教職大学院はどのように貢献できるのか
－教師教育の高度化とミドルリーダーの役割－

2017-2021 年度の課題研究では、「教師教育の高度化」を共通テーマに、教職大学院における教科教育の位置、実践知育成の取り組み、地域貢献に焦点を当ててきた。今期ではこれをさらに発展させるため、「教師教育の高度化におけるミドルリーダー（ML）の養成」を共通テーマに掲げ、教職大学院をはじめとする「教師教育の高度化」の課題に引き続き取り組んできた。

ミドル層は上部世代・下部世代に比べて人材層が薄いにもかかわらず、期待値は高まるばかりという課題を抱えている。授業（教育活動）の模範モデルとして、スクールビジョンやチーム学校の推進役として、世代間の実践知継承の要（かなめ）として、業務と期待が集中しやすい世代に対し、教員育成指標に示された資質能力はどれほど適合しているのだろうか。

確かに、全国の国立教員養成系大学・学部に教職大学院が設置された現在、専門課程による（ミドル）リーダー養成はほぼすべての地域において可能になった。しかし、制度的条件整備が進む一方で、かつては校内の人間関係の中で OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）を通して行われてきた「教職実践知の継承」は、フォーマルな専門課程でどこまで意図的・計画的・継続的にできるのだろうか。その可能性と限界を交錯させながら考察することが、専門職課程に内在する真正の課題に迫ることになることから、このような立脚点からの検討は今後の「教師教育の高度化」の未来予想図を描くうえでも不可欠である。

3 ヶ年の最終年にあたる今大会では、この「教職実践知の継承」という課題にスポットを当ててミドルリーダー養成の総括を行うとともに、「教師教育の高度化」という視点から今後の展望を示したい。

【登壇者】
佐々木幸寿（東京学芸大学教職大学院）
菅原　至（上越教育大学教職大学院）
棚野勝文（岐阜大学教職大学院）

【司会・進行】
原田信之（名古屋市立大学）
福島正行（盛岡大学）

８月６日（土）　17：10～18：30

ラウンドテーブル１
学校に対する外部からの支援のあり方

１　テーマの趣旨

現在、学校においては、GIGA スクールの展開、個別最適な学びの導入、教科横断的な学び、探究型の学びへの転換など、社会に開かれた教育課程づくりなど様々な課題を抱えている。このような中で、学校は、教育委員会、大学、地域からの支援の下に、さまざま教育活動を展開している。

例えば、単独の学校では取り組むことの難しい地域づくりのカリキュラムや授業改善プロジェクトなどについては教育委員会等の支援を受けたり、専門的なカリキュラムや授業づくりについて外部の専門家の支援を受けたり、大学と協働した授業改善のプロジェクトを進めるなどの事例を見られる。しかし、その一方で、学校に対する外部支援については、その効果的な支援には多くの課題を見られるところである。

本ラウンドテーブルでは，外部から学校を支援する際に留意すべき視点や課題について、事例等を素材として議論する。

２　タイムテーブル

趣旨説明	17:10～17:15
発表１	17:15～17:30
発表２	17:30～17:45
発表３	17:45～18:00
ディスカッション	18:00～18:30

３　役割分担

司　会	佐々木 幸寿	（東京学芸大学）
発表者	吉田 尚史	（独立行政法人教職員支援機構）
	藤野 智子	（東京学芸大学教職大学院）
	湯澤　卓	（上越市春日小学校）
コメンテーター	金井 香里	（武蔵大学）

（実践研究委員会）

８月６日（土）　17：10～18：30

ラウンドテーブル２
国際交流委員会ミニ研究会（オンライン研究会）を問う

１　本ランドテーブルの趣旨

国際交流委員会は、これまでに 8 回の海外スタディツアーを実施してきた。だが、新型コロナウイルスのパンデミックという大問題が起こってしまった。そのために、2020 年 3 月に計画されていたマレーシアへのスタディツアーを中止しなければならなくなった。既に構想していた 2021 年のタイ北部ピサヌロークへのスタディツアー実施の見通しも立たなくなってしまった。

そこで国際交流委員会では、オンラインでのミニ研究会を開催し研究活動を推進しようということになった。2020 年度には 3 回のミニ研究会を実施した。第 1 回目は、日本、中国、台湾、タイ、マレーシアを結んで、新型コロナウイルスのパンデミック下での教育について語り合った。第 2 回目は、マレーシア科学大学日本文化センターの副田雅紀所長に日本とマレーシアの教育交流について語っていただいた。第 3 回目は、国連 FAO マダガスカル事務所のチャールズ・ンブリ・ボリコ所長に SDGs について語っていただいた。そして、国際交流委員会では、ミニ研究会参加者も巻き込んで私たちの研究成果をまとめ、『国際交流と学校教育』（三恵社）を出版した。

2021 年度もオンラインでのミニ研究会を 3 回実施した。第 1 回目は、石田好広会員に地球環境教育に語り合った。第 2 回目は、小林淳一会員、周勝男会員、峯村恒平会員に、ポストコロナの教育について語り合っていただいた。第 3 回目は、多田孝志会員に SDGs の意義について語っていただいた。そして、『国際交流と学校教育パート 2』（三恵社）の出版を目指している。

国際交流委員会ミニ研究会（オンライン研究）の成果は何だろうか、また課題は何だろうか。国際交流委員会ミニ研究会を問いたい。

２　話題提供および司会

話題提供	徳永 誠	（IUKL 大学大学院）
	隅内 利之	（隅内教育研究所）
	守内 映子	（日本映画大学）
総　　括	林 尚示	（東京学芸大学）
司　　会	中山 博夫	（目白大学）

（国際交流委員会）

８月６日（土）　17：10～18：30

ラウンドテーブル３
論文審査における実践的研究論文の課題

学校教育の諸事象に関する理論的側面と実践的側面を包括し、学校教育研究の一層の発展に寄与していくことは本学会の大きな役割である。学会機関誌『学校教育研究』には、「自由研究論文」、「実践的研究論文」、「実践研究ノート」の３つのカテゴリーが設けられ、会員の投稿を奨励している。そのうち、「実践的研究論文」と「実践研究ノート」のカテゴリーには、教育実践に直接携わる会員の投稿が多い。また、会員からは実践的研究の進め方や実践的論文の書き方に関して最近の研究成果を踏まえた方法論を提示してほしいとの要望、また、論文審査において実践的研究論文に特有の課題があるならばそれを示してほしいとの要望が寄せられることがある。

これまでも、本学会では、実践的研究の進め方や論文化の方法に関しては、下記のように、一定の方法論の提示を試みたり、実践的研究の論文化に関する事例を検討したりして、その発信に積極的に取り組んできた。

・日本学校教育学会編『学校教育の「理論知」と「実践知」』（日本学校教育学会創立 20 周年記念論文集）教育開発研究所 2008 年
・日本学校教育学会編『これからの学校教育を担う教師を目指す』学事出版 2016 年
・日本学校教育学会機関誌『学校教育研究』第 34 号 2019 年（「第６部　実践的研究論文に挑戦しよう」）
・日本学校教育学会大 35 回研究大会ラウンドテーブル
　「実践的研究論文の書き方」機関誌編集委員会

一方、論文審査における実践的研究論文特有の課題に関しては、編集委員会内部の事情に関わる問題であるだけに、公開の場で取り上げられることは少なかった。しかし、実践的研究論文を投稿した経験をもつ会員には、これこそ知っておきたいところであり、今後の実践的研究や論文作成に役立てたいという思いがあるだろう。

こうした課題状況を踏まえれば、実践的研究の方法および論文の書き方について、論文審査で指摘されやすい課題等に関して、可能な範囲で提示し議論していくことが投稿論文の充実のために重要と考えられる。そこで、昨年に引き続き、機関誌編集委員会が担当する今回のラウンドテーブルでは、論文審査における実践的研究論文の課題について提示するとともに、ラウンドテーブルの参加者も巻き込んだ実践論文の作成に関する討議を行うこととしたい。

話題提供および司会
話題提供：山﨑 保寿　（松本大学）
　　小西 尚之　（金沢学院大学）
　　鈴木　瞬　　（金沢大学）
司　　会：松井 千鶴子（上越教育大学）

（機関誌編集委員会）

日本学校教育学会第 36 回大会　プログラム
発行年月日：2022 年 7 月 8 日
発行・編集：日本学校教育学会第 36 回研究大会準備委員会
準備委員会　委員長　黒田 友紀　（日本大学理工学部）
藤平 敦　（日本大学文理学部）
渡邉 真魚　（日本大学工学部）
土屋 弥生　（日本大学文理学部）
田中 謙　（日本大学文理学部）
佐久間 邦友（日本大学文理学部）

【大会準備委員会事務局】
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3 丁目 25-40　日本大学文理学部教育学科
日本学校教育学会第 36 回研究大会　大会準備委員会事務局 宛
E-mail：jase2022tokyo@gmail.com（担当：田中・佐久間）